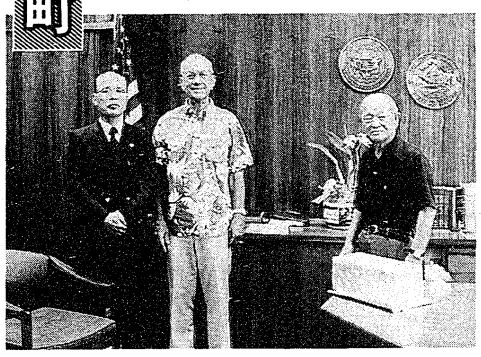
（第３種郵便物認可）　社会　上毛新聞　THE JOMO　昭和64年（1989年）1月6日（金曜日）　(16)

ハワイ島ヒロ市 旧公使別邸が懸け橋 伊香保町

〝姉妹都市〟提携へ 今月 町長ら訪問し協力要請

旧ハワイ王国駐日代理公使の別邸（別荘）があったことを縁に、北群馬郡伊香保町とハワイ島ヒロ市との姉妹都市提携が具体化してきた。同市在住の日系人との間で話が進み、昨年夏から同町の学校で語学指導している英語指導助手が同市出身であることも加わって、昨年十一月から動きが活発化。暮れに木暮昇助役と観光担当職員が現地を訪れたのに続き、今月二十日ごろには深井正昭町長、堀越保町議会議長、観光、商工団体の代表ら六人が同市を表敬訪問する。民間レベルの交流から友好親善都市、姉妹都市へとステップを踏む予定のため、姉妹提携にはまだ時間がかかりそうだが、町では今年四月の町制施行百周年を飾る事業として交流に力を入れる。



アカナ市長（中央）を表敬訪問した木暮助役（右は大久保氏）

同町には、明治維新直前に来日し、実業家の傍ら旧ハワイ王国駐日代理公使の〝ハワイ移民の父〟と呼ばれたロバート・アーウィンの別邸が大正時代までであった。アーウィンが毎年夏を過ごしていたこの別邸は、戦後、県の所有となり、現在は町がその一部を町指定史跡にして保存している。

こうした関係から、町ではハワイ州に絞って提携都市の候補探しを始め、昨年二月、町議会のハワイ訪問団（団長・堀越議長、六人）が同州の知事に協力を要請。その後、アーウィンの別邸に関する資料集めの中で、アーウィンが市出身だったことも、機運に拍車をかけた。

同市では昨年、大統領選挙と併行して市長選挙があり、それが終わった十一月末、大久保氏が「民間交流から始めようではないか」との手紙を町に寄せてきた。これを受けて、町では交流への取り組みを本格化させ、昨年暮れに急きょ木暮助役らを年末帰省するジャメロさんとともにヒロ市へ派遣。バーナード・アカナ市長表敬と、大久保氏との打ち合わせをさせた。

見also 日系人向け新聞「ヒロタイムス」となった出都。人口は六万人余りで、うち約一万六千人が日系人。ハワイ州ではホノルル市に次ぐ第二の都市。かつては漁業と砂糖産業で栄えたが、現在はリゾート、マカデミアナッツ、キラウエア火山観光の町として発展している。

深井町長の話　ヒロ市は火山が縁で伊豆の大島町と姉妹都市提携をしているが、交流が活発でないために、行政レベルという上からの提携に慎重になっているようだ。市長も代わったばかりだし、民間レベルの交流を活発にしてから、姉妹都市へと発展させたい。

日系人向け新聞「ヒロタイムス」のオーナーでもある大久保氏を中心に「伊香保委員会」も組織されている。深井町長らの訪問団は、市幹部だけでなく同委員会など民間団体とも接触。二十二日に開かれる現地の日系人協会の総会会場を訪ね、協力要請することも予定している。

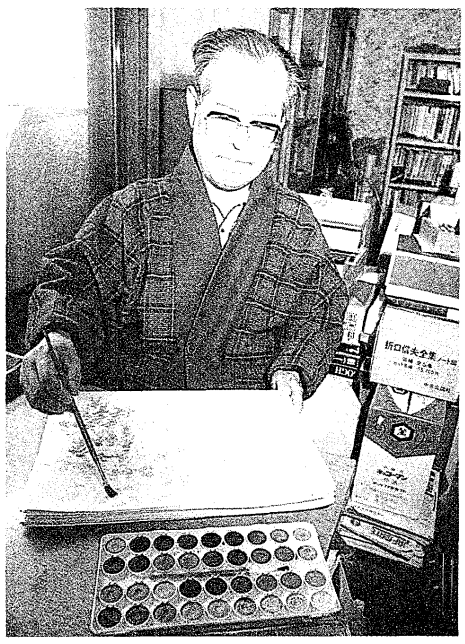
ヒロ市はハワイ島の中心都市で、旧ハワイ王国発祥の地

チャリティバザール中止のお知らせ
例年一月七日に行っていますサンラク共栄会主催による第七回新春チャリティバザールは、本年都合により中止させていただきますのでお知らせ申し上げます。
昭和六十四年一月六日
サンラク共栄会　会長　高畑　正三
㈱ホテルザサンラク　代表取締役　瀬下　実一
伊勢崎市茂呂町一三八九

芥川賞候補に本県出身者2人 司さん（前橋）と南木さん（嬬恋）

五日に発表された第百回芥川賞・直木賞（日本文学振興会主催）の候補作の中で、芥川賞候補に前橋市天川原町出身の画家、司修さん＝本名・霜田哲夫、長野県南佐久郡臼田町＝の二人がノミネートされた。

司さんは挿画・装丁家として知られ、四十九年の芥川賞作品である森敦の「月山」をはじめ、一流作家の装丁を数多く手掛けている。散文は十年ほど前から書き始め、著書も何冊かあるが、芥川賞候補になったのは今回が初めて。



「今の子供たちが興味を持つ遊びもきっとあるはず」と、大島さんは絵筆を握り続ける

候補作「バー螺旋のホステス笑子の周辺」は「海燕」一七月号に掲載された作品。

一方、南木さんは佐久総合病院に医師として勤務する傍ら、執筆に専念しており、芥川賞候補は今回で五回目になる。候補作は「文学界」九月号掲載の「ダイヤモンドダスト」。

遊びの心

自分さがし ③

孫の世代へ〝図解〟残す

絵に託す思い 熱く

小学校四年と幼稚園児の孫は、大島俊彦さん（六七）＝前橋市上細井町＝が作った竹とんぼを、ほんの数回飛ばしただけでほうり出してしまった。今では民芸品でしか見られなくなった竹とんぼ。大島さんは「珍しいし、きっと大喜びしてくれる」と期待していた。とこ ろが、孫たちの目には、竹とんぼが遊び道具とは映らなかったようだ。

「どうやったら高く、遠くへ飛ばせるか。いろいろ工夫しながら何十回と投げたのになあ」。大島さんは、テレビゲームを相手に一人で遊ぶ今の子供たちを見ていると、「心がなんとなく寒くなる」という。

がき大将

大島さんが子供のころ、子供たちは大勢で遊んだ。子供の世界に、大人は決して口を出さなかった。その代わり、がき大将がすべてをとりしきった。子供たちは遊びの中で、知らず知らずのうちにいろんなものを身に着けていった。

遊びは、子供たちの周りに限りなくあった。そしてその遊びのどれか一つでも得意なものがあれば、だれでも英雄になれた。何人か集まれば、木登り、竹馬づくりなど必ず一人ぐらい、とびきりうまい子がいた。なかには、声が一番大きかったり、うそをついても絶対にばれない―といった〝特技〟で尊敬された子供も。

大島さんは絵のチャンピオンだった。壁の落書き、図工の時間には、友達から一目置かれた。「みんながほめられると、うれしくて。これはどうかくんだと、友りになった。

つくり出す喜び

達に教えたりもしました。たった一つのことでも、大将になれるというだけで気持ちが良かった」

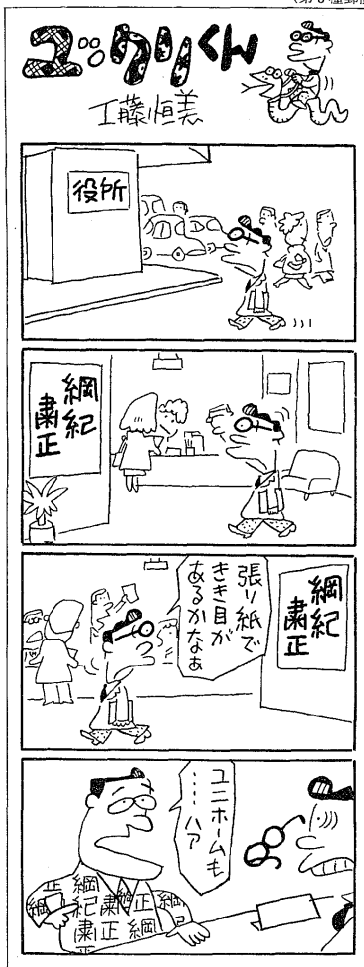
だが、今の子供は学校の成績がすべて。英雄になれる子供の数は、ほんの一握り取られるようで、なんともいえず寂しかった」と大島さん。残しておきたいという思いに突き動かされた。県庁勤めの暇をみつけながら、おとぎ話や昔の子供たちを入れた図解風の遊びの絵を、画用紙に描き始めた。

六年後、絵は五百枚にもなった。一―二月の自別、屋内、屋外、小刀などを使い自分で作る遊び一の四分野に分けて描いた。水がぬるんできた春のドジョウ捕り、夏の水鉄砲作り、秋の竹製けん玉作り、そして冬の竹馬作り―。どれも大島さんが鮮明に覚えていた情景だ。分からない女の子の遊びは、亡くなった母親のくらさんから教えてもらった。

県庁を辞めた二年後の六十年、再び描き始めた。「孫に残してやりたかったんですよ」。二人の孫とわが子二人のために、合わせて四組の絵を描いた。おじいちゃんの労作とあって、大事にしまってある。だが、孫たちは昔の遊びに、ほとんど興味を示さないという。

「時代の流れの中で、昔からの遊びが消えていくのは、仕方ないことかもしれない。でも、遊びの本質ともいえるつくり出す喜び、冒険心は伝えたい」

大島さんは孫たちの世代に向けて、遊びの絵を描き続けるつもりだ。

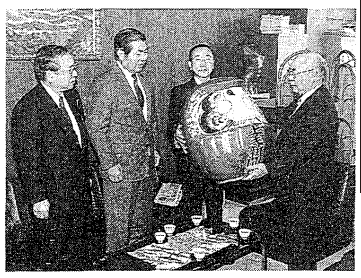


時の話題

▽高崎市の松浦幸雄市長らは五日、上毛新聞社を訪れ「会社の発展を願って」と、高さ六十二㌢の大だるまを贈った＝写真。

▽同市のだるまは「縁起だるま」として古くから県民に親しまれ、今ではすっかり〝市の顔〟に。寄贈は六七の両日開かれる少林山・だるま市のPRを兼ねてのもので、年始の恒例行事になっている。

▽大だるまには「社内繁盛」「協力一致」と願いが込められ、松浦市長から樋口昌之副社長に手渡された。同市と県達磨製造協同組合は、これを含めて計百六十個の大だるまを県、JR高崎駅、市内主要企業などに贈った。



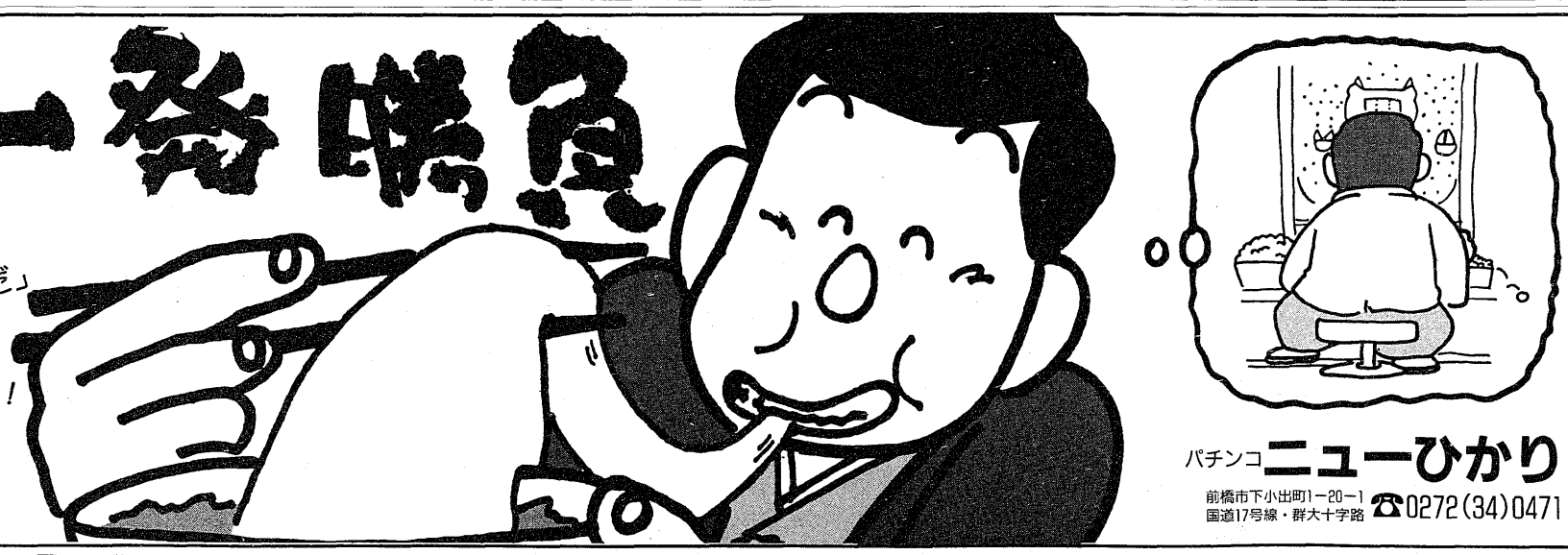
NC30本日新発売

VFR400R
自動二輪専門店
モト・パーク　☎0276(63)6421
ライダーウェアー&スクーター
㈱太田ホンダ　☎0276(62)4490

Royal Wedding
'89春のご婚礼展示会（並びにご予約会）
はずむお二人のしあわせお手伝い！
ご結納・挙式・ご披露宴からハネムーンに至るまでご婚礼の全てを展示。また経験ゆたかな係員がご説明、ご相談を承ります。皆様お誘い合せの上是非ご来館下さい。
1/7（土）あす・8（日）あさって
●午前10時～午後7時
●2階 鳳凰の間そのほか 入・場・自・由
魅惑の体験

今よみがえる伝統の美［十二ひとえ］
●6月末日までに、当ホテルにて挙式いただくご新婦様へ…「十二ひとえ」の美（美粧・着付・お写真付）を贈らせていただきます。
群馬ロイヤルホテル
前橋市大手町1-9-7 ☎0272-23-6111㈹宴会予約課

スクワラン 60㎖……5,800円
SRソープ 110ｇ……1,000円
SRクレンジング 160ｇ……4,800円
SRローション 120㎖……4,800円
SR保湿クリーム 40ｇ……3,800円
ファンデーション 2W……3,800円
SRくちべに……3,500円
天然100% スクワラン化粧品
シミや肌あれ なんかいらない…欲しいのは健康な素肌美！
今、1万円以上お買上のお客様に 高級口紅プレゼント（一月限り）
Ⓐ変色リップⒷピンクⒸオレンジⒹローズⒺパープル（の中から1本を）
謝恩プレゼント
●高級くちべに
●エステ優待券
エステティックサロン ビューエステ DE iMEAL
〒371 前橋市南町 南部大橋店
ご注文は ☎0272-21-0771㈹

ねばり一発勝負
パパったら！
おぞうに食べて
「パチンコもねばりが必要だ」
なんて言って。
食べてる時ぐらい
パチンコのこと忘れてよ！

パチンコ ニューひかり
前橋市下小出町1－20－1
国道17号線・群大十字路 ☎0272(34)0471

この印刷物の文章・写真等の著作権は上毛新聞社が保持しています。無断転載、複製及び頒布は禁止します。